

第一号議案 JYC フォーラム 2021 年度活動報告

■会員動向

1 会員数

正会員 21 名 個人一般 188 名 団体 22 団体 (2022 年 3 月 31 日時点)
 入会者数 8 名 退会者数 1 名 会費未納 106 名

■事業・活動

2 事務局の活動

事務局会議

4 月 2 日	9 月 20 日	12 月 22 日
6 月 21 日	9 月 23 日	1 月 12 日
7 月 17 日	10 月 6 日	1 月 26 日
8 月 4 日	10 月 20 日	2 月 9 日
8 月 18 日	11 月 10 日	2 月 16 日
9 月 1 日	11 月 24 日	3 月 9 日
9 月 15 日	12 月 8 日	3 月 23 日

関西大会会議関係の事務局会議

5 月 6 日	8 月 3 日	9 月 17 日
6 月 24 日	8 月 20 日	12 月 23 日
7 月 21 日	9 月 3 日	1 月 17 日

3 社会的発信

ポータルサイトの立ち上げ(草の根助成事業)

とゆ〜す 若者と一緒に歩く人の情報サイト

URL : <https://toyouth.info/>



若者や若者とかかわっている人が支援情報や調査資料、政策や助成金の情報などを得られるようなポータルサイトを作成しました。第一に、支援情報を集めて載せることで、若者から相談を受けたときにどういう頼り先があるのかを探しやすくすること、第二に、調査資料や政策、助成金情報などを載せることで、現場で活動している人が欲しい情報を得やすくすることに役立つものになればと考えました。

こうしたポータルサイトをつくることは、助成金獲得などの競争的な環境におかれざるをえないなかで、各団体や各支援者が孤軍奮闘している現状を少しでも変え、競争文化の浸透や孤立、資源の私有化に抵抗するというねらいもあります。各自が持つ情報をひらき、誰でも使えるように共有化し、若者が豊かに生活できるような社会を連帯してつくる協同の文化形成の取り組みとします。

ニュースレターの発行

2021年度は、事務局体制の不足もあり、一度だけの発行となりましたが。協同実践交流会の告知、オンライン講座の報告、各地で協同実践を行う現場からの報告を掲載しました。協同実践の現場からは、地域において、顔の見える関係の中でかたちづくられる居場所や働く場づくりの実践を報告していただき。オンライン活動だけでは持ちえない価値も改めて発信できたと考えています。

また、会員の原未来さんからは著書「見過ごされた貧困世帯の『ひきこもり』」の紹介と寄贈もいただき、寄贈分は抽選に応募していただいた会員に配布いたしました。改めて、ご協力に感謝いたします。

声明等の発信

2021年11月には「ひきこもりは、状態像であり病気ではない」と題する声明をJYCフォーラム理事会の名義で発信しました。

また、2022年1月には、ある自治体によって公開された動画（当事者や家族から相談機関に連絡することを求める内容）が、無知や偏見に基づく内容であるとSNS等で話題となり、その対応についても協議をしました。結果として、この動画は十数日で公開停止となり、JYCフォーラムとして何らかのアクションを起こすことはありませんでしたが。このような無知や偏見に当事者、その家族が傷つけられる状況は未だ無くなってはいないことが改めて浮き彫りになりました。

今後も、JYCフォーラムとしての社会発信を強め、同時に不安な気持ちを抱いたり、自らの言葉を発したいと考える当事者やご家族、関係者が気持ちを共有しあったり、議論のできる場づくりの継続についても必要性を感じています。

4 イベント・講座等の開催

若者協同実践講座@on-line

Season4-1「若者」とは何か「社会適応」から「権利」へ 開催日：2021年7月19日（月）19：30～21：00 会 場：オンライン（zoom） 参加者：25名 参加費：一般1,500円、会員500円、若者無料
Season4-2「実践」とは何か「若者支援」の社会化と市場化を経て公共化へ 開催日：2021年7月26日（月）19：30～21：00 会 場：オンライン（zoom） 参加者：24名 参加費：一般1,500円、会員500円、若者無料

2021年度のオンライン講座は上記二つのテーマで開催をいたしました。それぞれ40名ほどの参加をいただき、報告者よりの話題提供、小グループ（4～6名）でのグループ討論、全体での共有という流れで実施。昨年度、オンライン講座への参加がきっかけの入会者に継続してご参加いただくなど、新たな形でのつながりもできています。

テーマ設定については、それぞれ条例や制度化、あるいは公共化と市場化など、昨今の情勢に備

えたトピックを取り入れつつも、単一の(今表面化している)課題だけでなく、若者をとりまく社会の普遍的なテーマをもとに議論をいたしました。「協同実践」とは何か。それは、日々の実践と「明日の活動にすぐ役立つ」ものでなくとも大切な議論を積み重ね、どのように時代や社会の状況が変わっても続く実践・活動を下支えする哲学を皆様と共有することによって言語化がなされていくものである。そのための実践共有と議論の場をつくり続け、その成果を広く社会に発信していくこと、それこそが多様な実践・活動の担い手が集い、いわゆる「支援者」だけでない、多様な立場の方に参画いただいている JYC フォーラムの使命の一つであると私たちは考えています。

第 16 回全国若者・ひきこもり協同実践交流会@オンライン (草の根助成事業)

今こそ問われる"ともにあること"の意味
開催日：2022年2月23日(水・祝) 10:00~16:00 会場：オンライン (zoom) 参加者：一般 101 名、会員 56 名、若者 84 名 (登壇者含め 250 名以上) 参加費：一般 2,000 円、会員 1,500 円、若者無料
全体会「今こそ問われる“ともにあること”の意味」 登壇者：扶蘇文重さん (ワーカーズコープ東京三多摩山梨事業本部) 滝口克典さん (よりみち文庫共同代表) 小池達也さん (一般社団法人よだか総合研究所) 山本耕平さん (JYC フォーラム共同代表/全体会コーディネーター)
分科会 評価 / 10 代 / ワーカーの働き方 / 行政との協働 / 仕事づくりと地域 / 8050 / オンラインの居場所 / コロナ禍を生きる大学生 / 若者支援のやりがい / ひょうげん交流

2021 年関西で実施予定でしたが新型コロナウイルスの流行で実施を断念、2022 年に初のオンラインの形式で実践交流会を開催しました。全大会は JYC 共同代表の基調講演で始まり、「いまこそ問われる“ともにあること”の意味」というテーマで、リレートーク形式で実践の到達点と課題、展望を発信しました。分科会は「評価」「仕事づくりと地域」「ワーカーの働き方」「オンラインの居場所」「10 代カイギ」「行政との協働」「コロナ禍を生きる大学生」「若者支援のやりがい」「8050」「ひょうげん交流」という 10 テーマで設定し、参加者との交流も交えながら実施しました。

最初の準備会から本番後の交流会まで一度も集まることが難しい状況で実施したため、いつもの大会運営とは異なりましたが、オンラインならではのメリットもあり、参加者からは「オンラインだったので参加しやすかった。継続してほしい」「マイクのみで参加できたので発言できた」「もっと深めるための議論をしたい」「ハイブリッドでの開催を希望する」など様々な感想が寄せられました。また分科会後のオンライン交流会にも事務局の予想を上回るたくさんの方が参加、数時間に渡る交流の時間が続き“実践交流の場”“フラットに語り合える場”のニーズの高さが再認識されました。

会員交流企画（読書会）

読書会「暇と退屈の倫理学」
開催頻度：月に1回程度
参加者：企画者を含め8名
参加資格：JYCフォーラム会員であること

会員同士でより交流を深める場づくり、および協同する文化の醸成を目指して、小規模の読書会を実施した。また、この企画は会員に限定することで会員獲得・継続を促進するだけでなく、一定の安心できる場の担保が可能となる。若者が生きやすい社会を協同でつくるという意識を持つ会員同士での集まりのなかで、学び合いの文化を醸成するとともに、読書会を通して各地の他の実践者との関係づくりの場としても機能することを目指します。

現在は、企画者含めて8人が東北から関西までの広い地域からオンラインで参加し、月に一度の頻度で『暇と退屈の倫理学』の読書会を実施している。今後も、「思いつき」で希望者たちが読書会や勉強会、交流会などの取り組みをおこない、交流を拡げることができればと考えています。

5 草の根活動助成事業（認定NPO法人日本NPOセンターとの共同事業）

2021年4月認定NPO法人日本NPOセンターからの声掛けで、草の根活動助成事業を実施しました。公的資金の投入や大々的な寄付プロジェクトの対象となっていない草の根活動を応援したいとの趣旨で匿名の寄付があり。前述のポータルサイトの立ち上げ、全国の協同実践者の交流促進の二事業の他、助成先団体のコーディネートとして、20団体に対して資金援助の仲介を行った。

なお、各事業の詳細については、前述の活動報告、及び助成金使途報告を参照いただきたい。